

令和7年度 東京都立新島高等学校 学校経営報告

東京都立新島高等学校

1 今年度の取組目標と方策

(1) 学校運営・働き方改革

<取組目標>

学校経営計画の具現化のため、企画調整会議を基軸とし、分掌・学年・教科・経営企画室間が連携して学校経営を行う。計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

<方策>

- ア 教育目標及び学校経営計画実現のために、企画調整会議を基軸とし、各分掌・委員会、経営企画室が連携して学校運営と課題解決を図る。
- イ 各主任や経営企画室長が、リーダーシップを発揮し、組織を統括して課題解決と組織業務を効率的に行う。
- ウ 全ての教職員が最大限に力量を発揮して職務を遂行することに努める。
- エ 経営企画室の経営参画をより一層推進し、自律経営推進予算の効果的な編成実施管理に取り組む。
- オ ICT機器の活用、校内サーバーの活用を工夫し、教職員間の情報共有や会議等を行い業務の効率化を図る。また、デジタル化やペーパーレス化を推進する。
- カ 体罰の防止、会計処理、物品管理等を適正に行い、法令を遵守し、全てのサービス事故防止に努める。
- キ 教職員のライフ・ワーク・バランス及び教育活動の更なる充実を図るため、月の超過勤務時間を45時間以内に収める。

ア～ウ（組織運営）

教育目標および学校経営計画の実現に向け、企画調整会議を中核として各分掌・委員会・経営企画室が連携し、課題解決と業務の効率化を進めた。

分掌や委員会が組織的に機能していることへの肯定的評価は教職員の77%であり、今後も改善を進め、全教職員が最大限に力量を発揮して職務に取り組める体制づくりを推進する。

エ（経営企画室の参画）

経営企画室の経営参画を一層促進し、自律経営推進予算の効果的な編成・実施・管理に取り組んだ。

オ（ICT活用・業務効率化）

業務効率化のため、職員会議を月1回程度に集約し、朝の打ち合わせや企画調整会議を充実させることで教職員間の情報共有を徹底した。

また、会議資料をすべてPDF化し共有サーバーに保存することでデジタル化・ペーパーレス化を推進し、業務の効率化を図った。

カ（サービス事故防止）

サービス事故防止研修の実施や日常点検の徹底により、サービス事故を未然に防止した。体罰や暴言防止への取組についての肯定的評価は生徒94.4%、保護者87%であった。

キ（働き方改革）

多くの教職員が月45時間以内の超過勤務に収まったが、繁忙期に一部教職員で超過勤務が発生し、令和8年1月までに45時間を超えた教員は延べ25人であった。

また、令和7年12月末時点の年次有給休暇取得日数は1人当たり12日であった。引き続き、教職員のライフ・ワーク・バランスの向上を図る。

(2) 学習指導・体力向上

<取組目標>

生徒の進路希望実現のため、基礎学力の定着、学力の向上、学ぶ楽しさ、グローバル人材育成を視野に入れた授業等の学習活動を計画的に推進する。また、保健体育の授業をとおして、体力の向上、健康の保持増進に努める。

<方策>

- ア 主体的・対話的で深い学びの推進や習熟度別学習を実施することにより、生徒個々の学力に応じた効果的な学習指導を行い、学力の向上を図る。
- イ 基礎学力の定着を図るため、校内寺子屋事業も活用し、丁寧な指導を実践する。
- ウ より高い向上心を持って学習したい生徒や基礎的学力の定着を図る生徒のために、放課後、週休日、長期休業の補習・補講や自習室の開放を組織的・計画的に実施する。
- エ TOKYOスマート・スクール・プロジェクトに基づき、一人1台端末やICTサポートツール等を活用した教育活動の推進し、個別最適化された学びを実践する。
- オ 「東京グローバル人材育成指針」に基づき、外国人指導員JETの活用等、生徒が日常的に生きた英語に触れ、総合的な英語力を育成するとともに、世界の中の一員としての自覚を高め、多文化共生の精神を育む。東京都英語村「TOKYO GLOBAL GATEWAY」についても継続して活用する。
- カ 平成16年度から継続する「朝の読書」を実践し、学習に向かう姿勢、論理的思考を行うための読解力を向上させる。
- キ 成年年齢引下げに伴い、生徒自身が在学中からより一層、社会との関わりをもち、社会の一員であることの自覚を深めるため、主権者教育の充実に努める。
- ク 体育の授業開始時に基礎トレーニングを実施するほか、体育授業、部活動、学校行事等あらゆる機会を捉えて、基礎体力及び運動能力の向上に取り組む。
- ケ 教員相互の授業見学を実施し、授業研究等のOJTをとおして、学校全体の授業力向上に努める。また、各種研修に参加し、教職員の資質・能力の向上に努める。

ア～ウ（授業改善・基礎学力向上）

探究型・対話的な学びや習熟度別授業（英語1クラス3グループ、その他教科1クラス2グループに展開）を実施し、生徒の授業満足度は必修91.7%、選択97.2%と高い評価を得た。基礎学力向上が必要な生徒は校内寺子屋事業に継続参加し、対象者は17名から12名に減少したものの、引き続き丁寧な指導が必要である。

さらに、長期休業中講習や自習室整備により家庭外の学習機会を拡充した。

保護者の授業評価は81%であった一方、生徒の学習意欲や家庭での学習共有（71%、58%）は課題が残り、改善を要する。

エ（ICTを活用した個別最適化）

生徒一人1台端末を活用し、Teamsやデジタル教材を効果的に使用した。欠席者向けや航路欠航時のオンライン授業を実施し、学習機会の確保を図った。

オ（英語教育）

JETによる授業やEnglish Lunchを通して英語の4技能、とくにリスニング・スピーキング力の向上を図った。

また、TOKYO GLOBAL GATEWAYを1学年17名が利用し、英語への関心を高めた。

カ（読書活動）

毎朝10分間の朝読書を実施したが、満足度は全体61.1%であり、特に1学年は50%と低かった。読書の価値向上に向けた改善が必要である。

キ（主権者教育）

2学年の「公共」の授業を中心に主権者教育を実施し、生徒の意識向上に努めた。

ク（体力向上）

授業・部活動・地域行事等を通して基礎体力および運動能力の向上に取り組み、東京都体力調査では全体として都平均を上回った。

ケ（授業力向上）

校内外の研究授業の参観を通して授業改善を進めた。授業満足度は生徒が必修91.7%・選択97.2%、保護者81%、地域100%であった。他校教育関係者からの指摘も踏まえ、全教科の授業力向上を図る。

(3) 生活指導・健康安全教育・特別支援教育

<取組目標>

基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の醸成や思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。また、教育活動全体をとおして、安全教育、健康教育、特別支援教育に取り組む。

<方策>

- ア いじめの未然防止のため、教職員間の情報共有を図り、組織的に対応する。
- イ 社会規範の遵守を根幹として、自発的な挨拶の励行及び所作としての儀礼的な場での挨拶指導、遅刻防止、身だしなみ指導等について、学校の教育活動全体で取り組む。
- ウ 整理・整頓及び清潔・清掃指導を日常の学校生活や学校行事において、全教職員で取り組み、社会性や公共性を養い、規律を遵守する態度の育成を図る。
- エ 生徒個々の発達段階に応じた生活指導を実践し、特別指導0件を目指す。
- オ 自転車通学者には自転車保険への全員加入及びヘルメットの着用を奨励し、交通安全教育の充実を図り、交通事故防止を徹底する。
- カ セーフティ教室・薬物乱用防止教室・防災訓練等を通して、安全教育を推進し、自己危機管理能力を育成する。
- キ がん教育や性に関する指導、アレルギー疾患対策を推進し、健康教育の充実を図る。
- ク 様々な課題を抱える生徒に対し、教育相談体制を整備する。学校医や特別支援教育心理士、スクールカウンセラー、学校薬剤師等による講話や相談活動、「SOSの出し方に関する教育」の授業を、学級活動（ホームルーム活動）、保健体育（保健分野）等の教科と関連させ、いずれかの学年において、年間1単位時間以上実施する。
- ケ 特別支援教育校内委員会を中心に、学校生活や学力、進路等について適切な対応ができるよう充実を図る。
- コ スクールカウンセラー連絡会や特別支援教育校内研修会を定期的実施し、生徒情報を共有し、心のケアと生命尊重の教育の充実を図る。

ア（いじめ防止）

スクールカウンセラー連絡会兼いじめ対策委員会を年4回実施し、教職員間の情報共有と組織的対応を図った。

イ・ウ（基本的な生活習慣・規範意識）

学校全体で挨拶、遅刻防止、身だしなみ等の指導を継続した結果、指導の適切さへの肯定的評価は生徒86%、保護者91%であった。

一方、生徒のマナー評価は地域86%、生徒75%、教育関係者59%と課題がみられた。

校則理解は1学年67%と低く、入学時からの定着を図る必要がある。

制服満足度は72.2%であり、小規模校のため新制服導入は困難だが、現行継続や連携中学校との合同デザインなど今後の検討課題である。

エ（特別指導）

年間を通じて指導を行い、特別指導件数0件を達成した。

オ（交通安全）

自転車保険加入を徹底し、自転車事故0件を維持した。

カ・キ（安全教育・健康教育）

セーフティ教室、薬物乱用防止教室、防災訓練等を実施し、安全教育を推進した。がん教育・性教育やアレルギー対策も実施した。

ク・ケ・コ（特別支援・相談体制）

学校医・心理士・SC等による講話・相談を実施し、94.4%の生徒が「悩み相談に適切に対応している」と回答した。

特別支援教育委員会は5回開催し、生徒理解と支援体制を整備した。

(4) 進路指導

<取組目標>

組織的・計画的なキャリア教育をとおして、生徒の進路意識の向上を図るとともに、生徒の進路希望実現に向けた指導を、家庭と連携しつつ進路指導部を中心として全教員で行う。

<方策>

- ア 3年間を見通したキャリア教育システムを構築し、進路相談や講演会、インターンシップ等について、オンラインも有効活用して計画的に実施し、生徒個々の希望進路の実現を図る。
- イ 「総合的な探究の時間（1，2，3年生のキャリア教育）」を活用し、よりよく課題を解決することを通して自己の生き方を考え、進路意識の向上を図る。
- ウ 進路指導部と各学年が連携し、生徒の進路希望や適性等に応じたきめ細やかな進路指導を実施する。
- エ 総合型選抜・推薦入試等に対応した組織的な指導体制を構築するとともに、大学入学共通テストや一般試験での合格を目指す生徒の育成を図り、国立大、難関私立大合格も視野に入れた進学指導を進める。
- オ オンライン等を活用して、通信講座や予備校授業等を積極的に活用した自学・自習の習慣を身に付けさせる。
- カ 進路指導室や掲示板等を活用し、進路情報を積極的に発信する。そして、生徒自らオープンキャンパスや会社見学等への進路情報収集に向けて、主体的に行動できる態度を育成する。
- キ 学年・教科・進路指導部が連携して各種検定の各級の合格を目指した学習指導を推進する。
- ク 新島村立小学校・中学校から引き継いだキャリアパスポートを有効活用し、進路指導の充実を図る。

ア（キャリア教育の体系化）

3年間を見通したキャリア教育システムのもと、進路相談、講演会、インターンシップ等を計画的に実施し、生徒の希望進路決定率100%を達成した。進路指導の適切さについては、生徒97.2%、保護者94%が肯定的に評価した。

イ（探究的な学びとの連動）

「総合的な探究の時間」を活用し、課題解決を通じて自己の生き方や進路を考える活動を行い、生徒の進路意識の向上を図った。

ウ（個別最適な進路指導）

進路指導部と各学年が密接に連携し、生徒の希望や適性に応じたきめ細かな進路指導を実施した。その結果、97.7%の生徒が「適切な進路指導が行われている」と回答した。

エ（入試制度への対応）

総合型選抜・推薦入試等に対応した組織的な指導体制を構築し、一般選抜や共通テストに挑戦する生徒の支援も行うことで、進学指導の充実を図った。

オ（自学習慣の定着）

スタディサプリ等のオンライン教材を活用して自学・自習を促したが、積極的な学習態度に向の上の見られない生徒もおり、引き続き学習習慣の形成を支援する必要がある。

カ（進路情報の提供）

進路指導室や掲示板等を活用して進路情報を積極的に発信し、1年生から自らオープンキャンパスに参加するなど、生徒が主体的に情報収集を行う姿勢が育ってきた。

キ（検定取得支援）

学年・教科・進路指導部が連携して検定取得を推進し、英検2級3名、日商簿記2級1名、英検準2級3名が合格した。

ク（キャリアパスポートの活用）

中学校から引き継いだキャリアパスポートを活用し、1年次から継続的なキャリア教育を実施した。

(5) 特別活動・地域連携

<取組目標>

特別活動を通して、新島高校の生徒及び地域社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

<方策>

- ア 文化祭、村民運動会等の学校行事や生徒会・委員会活動、ホームルーム活動をとおし、地域との連携を深めるとともに、各種のリーダーを育成し、自主的、主体的な活動を推進する。
- イ 部活動においては、地域や他校との連携を深め、地域の体育・文化活動への参加や、中高合同練習等を積極的に行う。また、内地で開催される講習会や練習試合、合同練習等に積極的に参加する。
- ウ 関係諸機関との連携を深め、地域と連携した防災訓練や防災教育の充実を図り、生徒、教職員の防災意識の向上を図る。
- エ 社会貢献の精神や郷土愛を育てるために、ボランティア活動や総合的な探究の時間、外部人材等を活用して、地域美化や伝統文化の継承、観光関連等の活動を充実させる。
- オ 「新島研究」、「総合的な探究の時間」、学校行事及びその他の教育活動を活用し、地域理解を深め、地域の発展に貢献するための活動を実施する。

(5) 特別活動・地域との連携

ア (学校行事・生徒会活動を通じた地域連携とリーダー育成)

文化祭、村民運動会、生徒会・委員会活動、ホームルーム活動等を通じてリーダーシップを育成し、地域との連携を深めた。本校が地域に開かれていることについて、他校教育関係者 95%、地域 100%から肯定的な評価を得た。

イ (部活動を通じた交流と競技力向上)

太鼓部は地域行事参加、他校との合同合宿、内地での大会出場等を行い技術向上と交流を図った。バスケットボール部・バレーボール部も合同練習や大会参加を通して競技力とチームワークの向上に努めた。

ウ (防災教育の充実)

年間4回の避難訓練に加え、東京都・自衛隊・新島村による総合防災訓練に参加し、実践的な防災知識や初期対応力を身につけるとともに、地域との連携意識を高めた。

エ (地域貢献・郷土理解の推進)

地域子どもクラブのボランティア活動や、盆祭(ユネスコ無形文化遺産「大踊」)への参加、小中学校との地域クリーン作戦(浜辺清掃)、地域祭事「天王様」などの活動を通して、社会貢献の精神と郷土愛を育んだ。地域活動への協力姿勢については、教育関係者 100%、地域 86%から肯定的に評価された。

オ (新島の文化・資源を生かした探究活動)

「新島研究」や探究活動を通じて地域理解を深め、地域の文化・資源を活用した教育活動について、教育関係者 94.4%、地域 100%が肯定的に評価した。

(6) 募集・広報活動

<取組目標>

新島高校の教育実践を都民、中学生、地域に発信し、本校の教育活動に対する理解や信頼を促進する。

<方策>

- ア 高等学校の取組や教育活動について、私立中学校、地域に積極的に広報活動を行い、募集対策の充実を図る。
- イ ホームページの更新頻度を高め、学校の特色を積極的に発信し、本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び中学生に伝える。
- ウ 東京都改革推進計画・新実施計画に則った島外生徒受入事業について、新島村教育委員会、東京都教育委員会と連携し実施する。

ア（中学校・地域への広報活動）

積極的な広報活動および募集対策を進めた結果、村立中学校3学年の82%が本校への進学を希望した。

イ（学校ホームページによる情報発信）

令和8年1月までにホームページを118回更新し、本校の特色ある教育活動を積極的かつ広範に発信した。

ウ（島外生徒受入事業）

東京都改革推進計画に基づく島外生徒受入事業については、令和7年度2年生2名、3年生2名を受け入れて本校に在籍している。一方、令和6・7年度は島内のホームステイ受入先不足により、新規受入が2年間休止となり、継続性が今後の課題となっている。

（7）新島村立学校との連携

<取組目標>

「新島村連携型中高一貫教育要覧（平成18年1月版）」、「新島村一貫教育研究協議会報告書」等に則り、教員の人的交流と人的補完、授業交流、学校行事・生徒会・部活動の連携を実施することをとおして、郷土を愛し、国際社会に貢献する若者を育成する。

<方策>

- ア 新島村連携型一貫教育研究協議会に則り、新島村立小学校、中学校との間で、学習指導部会、健全育成協議会、教務部会、キャリア教育部会、学校ICT教育推進協議会、特別支援教育推進協議会、特別支援教育コーディネーター連絡協議会、養護（教諭）部会をとおして連携を推進する。
- イ 新島村連携型中高一貫教育に則り、新島村立中学校との連携を推進する。
 - （ア）6年間を見通した学習指導や総合的な探究の時間、TTや出前授業等の授業乗り入れに向けて推進する。
 - （イ）学校行事、生徒会活動、部活動等の一部の合同実施に向けて推進する。
 - （ウ）教科指導や校務分掌、情報交換、協議、研修等の教職員交流を推進する。
- ウ 中高連携による新島中学校との施設・設備の円滑な相互利用に向けての委員会及び連絡会並びに検討会を定期的に行い、有効的に活用する。

ア（連携型一貫教育の推進）

新島村連携型一貫教育研究協議会の各部会・協議会を通じて小中学校と連携を深め、学習指導・健全育成・キャリア教育・ICT教育・特別支援教育など多面的に連携を推進した。

イ（中高一貫連携の強化）

小中高の連携活動への肯定的評価は、教育関係者85.7%、地域100%であり、引き続き連携の強化を図る。

- （ア）授業連携
本校JETと小中学校とのTT授業、本校教員による出前授業、中高合同授業を実施し、学習指導面での連携を推進した。
- （イ）行事・部活動の連携
村民運動会の合同参加、中高生徒会の共同活動、バスケットボール部等の中高合同実施を行い、交流を深めた。
- （ウ）教職員交流
教科指導・校務分掌に関する情報交換や研修を実施し、教職員同士の連携を強化した。

ウ（施設・設備の相互利用）

年間を通じて中学校と協議を行い、施設・設備の円滑な相互利用を進めた。

2 重点目標と方策（数値目標）

- (1) 3 学年生徒の希望進路の決定率 100%
- (2) 進学模試、各種検定試験、基礎力診断テスト等実施 年間 10 回以上
- (3) 進路相談会、インターンシップ等の進路行事の実施 年間 5 回以上
- (4) 長期休業中に基礎学力定着、発展的学習及び大学受験の補習・補講の開講 10 講座以上
- (5) 考査に向けた家庭学習時間
1・2 学年 1 時間以上 50%、2 時間以上 20%
3 学年 2 時間以上 50%
- (6) 各種検定（英検・漢検・数検）の 2 級合格者 2 名以上、準 2 級合格者 3 名以上
- (7) 年間を通じての 1・2 学年生徒の読書目標冊数、3 冊以上
- (8) 1・2 年学年生徒の進級率、3 学年生徒の卒業率 100%
- (9) 部活動加入率 90%以上
- (10) 1 日あたりのクラスの平均遅刻者数 0.2 名以下
- (11) 年間特別指導の件数 0 件
- (12) 生徒の挨拶や身だしなみ、遅刻防止等の重点指導期間の実施 各学期 1 回
- (13) 安全・健康教育推進のための講演会の実施 年間 3 回以上
- (14) 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値 東京都平均以上
- (15) 学校ホームページ更新 週 1 回以上
- (16) 新島村立中学校の在校生のうち、本校への入学者 70%以上
- (17) 部活動等において地域と連携した体育・文化活動の実施 年間 5 回以上
- (18) 新島地区での美化活動の実施 年間 1 回以上
- (19) 生徒の学校満足度肯定回答率 90%以上

- 希望進路決定率 100%を達成。
- 模試・検定等は年間 18 回実施。
- 進路行事は年間 5 回、補習・補講は 14 講座を実施。
- 部活動加入率 94%。
- 特別指導件数 0 件、平均遅刻者 0.2 名。
- 体力調査は全体として都平均を上回る結果。
- ホームページ更新は週平均 2.7 回。
- 生徒満足度 97.2%。
- 地域美化活動・地域連携活動を計画どおり実施。

3 本年度の総括

本年度は、学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、地域連携の各分野で計画的かつ組織的な取組を進め、授業改善や ICT 活用の促進、地域連携の強化、進路指導体制の充実など、教育の質向上に大きな成果が見られた。

また、希望進路決定率 100%、特別指導 0 件、体力調査の良好な結果など、生徒の学びと成長を支える環境整備が進んだ。

一方、働き方改革、読書活動の満足度、生徒の学習意欲・規範意識の向上、中学校との連携強化、島外生受入の継続性など、引き続き改善すべき課題も明らかになった。

今後も、本校の特色と強みを生かし、生徒一人一人が主体的に学び成長できる学校づくりをめざして、組織的かつ継続的に教育活動を推進していく。